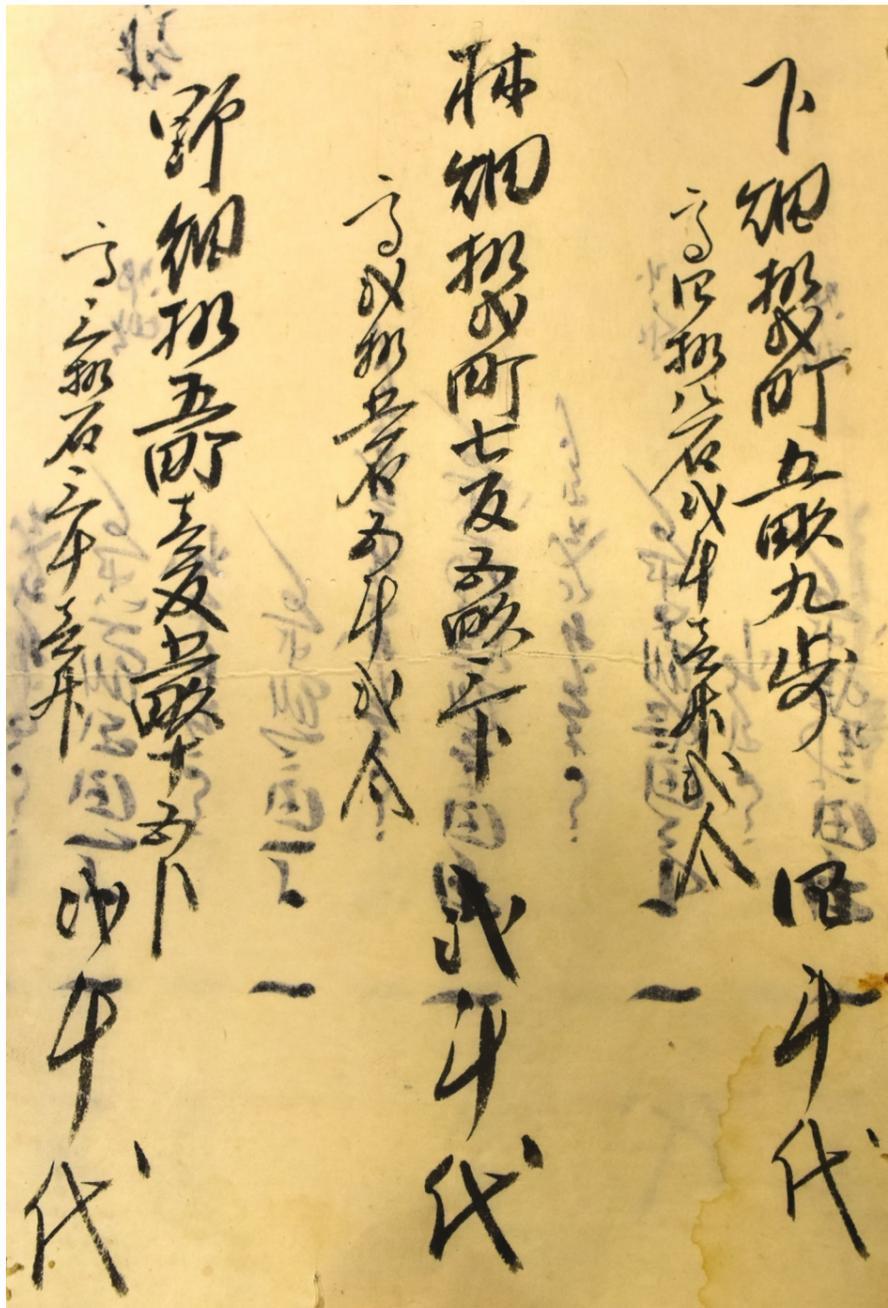


・くずし字をみて、マス目をうめてみましょう。マスの下か右側にヒントが書かれています。



地目	面積	面積あたりの収穫量
石高		
地目	面積	面積あたりの収穫量
石高		
地目	面積	面積あたりの収穫量
石高		

●元文元年の「検地帳」から村がみえる！
廻り田村の武蔵野新田（現小平市）は、廻り田村（現東村山市）を本村とする新田です。廻り田新田は本村から遠いこともあり、開発の際は反対の声をあげる百姓も多くいました。元文元年に縄入された際に作成された検地帳によると、廻り田新田の面積は四十町六反五畝三步、村高は一〇七石四斗八升四合と定められています。地目は中ノ下畑・下畑・林畑・野畑の四種に分けられ、屋敷地は設定されませんでした。その割合も林畑と野畑が全体の七割を占めていたことから、秣場確保の場所とされていたといえます。

その後、明治の地租改正事業の「壬申地券」（明治五年）の発行に際して、土地の所有や面積等の情報の参考のため、各町村に残る検地帳が使用されました。この資料は神奈川県へ提出された、元文元年の検地帳の写しです。（小町家文書）そのまま提出されたり写しが作成された検地帳には、新たに地番などが書き込まれたものもあります。こうして、江戸時代の情報を基に発行が進められた壬申地券でしたが、土地慣行の違いや帳簿がないといった理由により、全国的に調査・作成は遅れ、発行に至らなかった地域も少なくありませんでした。

- 地目
土地の種類（田・畑・屋敷）と上・中・下・下々といったランクに分けられました。
- 林畑：検地で高付けされた山林が荒地になり雑木林となった畑。
- 野畑：下々畑より劣った悪地の畑。
- 斗代（石盛）
田畑一反あたりの等級ごとの標準収穫量。畑は田に準じて決定されました。
- 単位
面積
一歩（＝一坪）×三〇＝一畝
一畝×一〇＝一反
一反×一〇＝一町
一才（容積）
一才×一〇＝一勺
一勺×一〇＝一合
一合×一〇＝一升
一升×一〇＝一斗
一斗×一〇＝一石

●参考文献

『近世の開発と村の暮らし』（小平市）
『東村山市史7 資料編 近世1』（東村山市）

廻り田新田 地目(元文元年)

